

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年5月11日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.11】

## JR総連は「JR労研」の実態を説明せよ！

本間氏の証言では、「JR労研」には「中央労研」「地方労研」「支部労研」があるという。機関誌「労働者の実践」には、「JR労研中央幹事会」のほか、「総連JR労研」「北海道JR労研」「東日本JR労研」「東海JR労研」「西日本JR労研」「貨物JR労研」からの論文が掲載されている。JR総連の各単組に「JR労研」が置かれていることは明らかだ。

ところがJR総連は、「JR労研」を単なる「一種のサークル」だと強弁し、組織指導の実体をひた隠しにしようと懸命のようだ。「JR総連通信」(No.447、2000年12月26日付)には、次のような記述がある。

革マル派は、何を血迷ったか、「JR労研」を御都合主義的に勝手解釈しているのだ。

JR総連が調査したところ「JR労研」とは「JR労働運動研究会」のことで、「JR労働運動の前進のために研究 学習 討論する、有志による一種のサークルなのである。

会の性格上、定まった組織形態などなく、連中(注:革マル派)が言うような「中央幹事会」など存在しない。従って坂入氏が「事務局長」であることなど虚構に過ぎない。

...「JR労研」がJR総連や各加盟単組の方針に関与している事実は一切ない。JR総連や各加盟単組は、綱領に基づき、大会で決められた方針に沿って、組織運営されているのである。

「JR総連が調査したところ」などと、「JR労研」を初めて知ったかのように白々しく述べているが、彼らは「JR労研」の実態が明かされることを、よほど恐れているようだ。

確かに、形式上は大会で決めた方針に沿って運営しているということだろう。しかし、本間氏の証言によれば、「JR総連やJR東労組の現職委員長がJR革マル派の責任者ということになり、「政府答弁」などを合わせ考えれば、JR総連や各加盟単組の機関の執行部をJR革マル派の関係者が占有している疑いが非常に強い。先に見た「JR労研」の結成アピールにあるように、「政研」が担った「動労型労働運動」の復活を目指す役員らに組織が主導されているとすれば、事実上、「JR革マル派や「JR労研」が運動を支配しているのも同然ということになる。

「労働者の実践」で「全ての職場に『JR労研』の旗を！」と第一の任務として訴えていることをみても、「JR労研」が、「JR総連と傘下組合の全職場の乗っ取りを企図していることは明らかだ。本間氏が明らかにしたJR革マル派の組織支配や活動家養成の実態は、こういうことだったのだ。

### JR労研の事務局はJR総連内に設置していることを明記！

ところで「労働者の実践」創刊号の裏表紙には、発行元「JR労働研究会中央幹事会」、事務局「東京都品川区西五反田 JR総連内」と明記されている。JR総連内に事務局が置かれている団体を「JR総連が調査したところ」とは笑止千万だ。創刊号では気合いが入り勇み足をしてしまったのだろうか。次号では「JR労研中央幹事会」事務局長とされ、革マル派に「拉致・監禁」された坂入氏についての解説など、さらに検証を進めていく。

JR総連と傘下の組合は、闇の組織「JR労研」の実態について、責任者の氏名、加入者の氏名、活動内容などを、組合員に具体的に説明する責任があるはずだ！